

みのりの小道通信 2019年3月号

ミニ学術植物園「みのりの小道」を活用した
「学生・地域とともに育ち、歩む大学」づくり

島根大学(松江キャンパス)松江市西川津町 1060
TEL : 0852-32-6492 (生物資源科学部 事務室)
Email : yamagishi.kazuto@gmail.com (山岸)
2019年3月11日 発行

ー昨日、島根大学農場に行った時、微かに「インスタントラーメンの粉末スープ」に香りがふわーっと漂ってきました。今シーズン初めての出会い。「たくあん」「廃棄ガス」「アンモニア臭」と表現されることもある特徴的な香りですが、その正体は、ヒサカキ(姫榊)です。サカキの代わりに神棚や仏壇へのお供え物として利用されることもあります。香りが漂ってきたら、ぜひヒサカキがどこに存しているか周囲を探してみてください。クリーム色の釣り鐘形の花が下向きに多数並んで咲いています。4月まで独特な芳香が楽しめます。

前回(1月11日)第167回公開作業

主な実施内容(Do)

参加者 28名(一般14名、学生7名、教職員7名)で行いました。

できる作業・体験等: 体験_焚き火、 体験_ブルーベリー・カキ剪定、 体験_みのりの小道の看板づくり、 試食_干し柿(長野産)、 試食_ダイズの加工品、 体験_餅つき・石焼き芋

みんなでやる体験・お話等: 試食_お餅・焼き芋、 お話_半栽培と子ども達、 お話_山王寺での取組み、 お話_地域と大学生の連携による農村地域づくりの実践~「農村調査分析論」を通じて~、 お話_ダイズのちょっと面白い話、 報告_仕事を始めて約一年の卒業生、 交流_みのりの小道通信の発行

お餅つき



アンケート結果等1(Check&Action)

- ・体をどのくらい動かしたか; 極小 36% 小 7% 中 43% 多 14% 極多 0%
- ・本日の活動に満足したか; そう思う 80% 少しそう思う 20% どちらでもない 0% あまりそう思わない 0% そう思わない 0%
- ・印象に残ったもの(複数回答); 半栽培と子ども達 27%、お餅つき 27%、ダイズのちょっと面白い話 27%、あじさいの芽の観察 20%、山王寺での取組 20%、焚き火 20%
- ・本日のみのりの小道を一言で表現すると? ; 色々豊かな日、お正月の再来、地域と大学のほっとする交流の場、ご縁、どこでもドア、亀ちゃん大活躍、さつまい芋(焼芋)、餅つき、ゆったりした雰囲気、冬の味、つながり

みのりの小道で得られた情報をきっかけにして、皆さんの普段の生活がわくわくどきどき、豊かになるといいなあ、と思います。



本日、さっそくみのりの小道の早春の植物の観察をルーペ(14倍)等で行います。

アンケート結果等2(Check&Action)

【初めての参加】 とても新鮮で今年取り組み始めたいことのヒントが沢山あった。普段、大学との接点がなかったが、今回参加させてもらえたお陰で、大学で今研究されている内容や、それが地域とどのように関わっているのかを垣間見る事が出来てとてもとても有意義な時間となった。

【手作りの味覚】 手作りの干し柿等もいただけてうれしかった。干し柿いつもありがとう。手作りの豆腐やきな粉をいただき、ごちそうさま! つきたてのお餅に付けたきな粉がとても美味しかった。噛みしめるようなおからの味は初めてで美味しかった。

【全体的に】 学生さんと地域の人達が久しぶりに沢山集まって、一緒に作業したり意見交換が出来て楽しかった。卒業生の今を聞く事も出来て良かった。色々な人がつながる会だったなあと思い、いいなあと思った。餅つきをする人もいれば、暖をとっている人もいて自由でまったりとしたこの時間が居心地良かった。私も何かの形で一緒に盛り上げていければと思う。

【要望】 野草の調査、野草料理

今回(3月11日)第168回公開作業

主な計画(Plan)

できる作業・体験等:

体験_エゴマ油を搾る by 岡部(学生) 作業_「みのりの小道」看板の設置準備(昔の看板の後片付け)by 深田(教員) 観察_ジンチョウゲ・マンサク・フキノトウ・スイセン・シナミザクラ 体験_カキ・ブルーベリーの剪定 剪定枝の切断 作業_溝掃除 体験_ジャガイモ植付 体験_ヤツデ鉄砲づくり

みんなでやる作業・お話等: 体験_焚き火、 観察_みのりの小道の早春の植物 by 大谷(教員) 味覚も楽しむ お話_水田放牧プロジェクト by 深田(教員) 予告_陶芸体験 by 深田(教員) 交流_みのりの小道通信の発行 by 山岸(一般)

ヤツデ



次回の公開作業等の予定(Plan)

今後は年に4~6回程度の不定期開催予定です!

第169回: 5月12日(日)14:00~16:00: 焚き火 筍掘り 筍料理 陶芸体験 シナミザクラ試食(開花してから2ヶ月ほどで成熟します。成熟直前に鳥たちが食べ過ぎないことを祈りましょう!)

【観察】みのりの小道での早春の植物観察 by 大谷修司(教育学部教員)

3月になると、毎年島根大学周辺で最初に咲き始める身近な草本は、青い花をつけるオオイヌノフグリ、ピンクの花をつけるヒメオドリコソウなどがあります。島根大学みのりの小道周辺は今、カラスノエンドウや服に付着しやすいヤエムグラも結実成長しています。3月11日は、これらの植物を目だけでなく、14倍のルーペを使ったり、実体顕微鏡、顕微鏡を使って植物の構造をしっかりと観察する予定です。また、植物図鑑で同定の練習をします。

まずは、オオイヌノフグリの花や葉、茎をじっくりとルーペで観察し、自分で特徴を探し出しましょう。ヤエムグラはどのような構造があるから服に付着するのでしょうか。手で触っても理由はだいたいわかるのですが、ルーペで観察すると、なるほどとうなずけると思います。ヒメオドリコソウはシソ科です。シソ科には茎が四角、唇形花をつける、葉が対生であるなどの共通点があります。科の特徴を知ると自分が調べたい植物が何科か予想ができ、図鑑を使っての同定ができるようになります。

カラスノエンドウが属するマメ科の特徴は、葉が複数の小葉からなり、蝶形花をつけ、豆ができ、根瘤が根にあります。根瘤には根瘤菌が共生しており空中窒素固定をします。空気中の安定な窒素は栄養分として使えませんが、根粒菌が利用できるアンモニアに変えるので栄養として利用できるのです。カラスノエンドウにも根瘤はついているのでしょうか。当日は引き抜いて根瘤の有無を確認してみましょう。島根大学の中や皆さんの家の周囲で何種類のシソ科やマメ科植物があるか調べてみてください。この活動を通じて、身近な植物に興味をもっていただけると嬉しいです。

【次回予告(5月12日)]陶芸体験、ろくろを回して湯飲み茶わんを作る by 長田晴樹(陶芸部部長)

陶芸部による陶芸体験教室は随時受付中です。陶芸体験では、手回しのろくろを使って湯飲み茶わんを作ることができます。

はじめに粘土をろくろの中心に置き、見本の茶碗より一回り大きな径の円筒状に整えます。そして粘土の中心に指で穴をあけます。底から1cmまで穴を作ったら、側面を縦に伸ばしていき、茶碗の高さを出します。ここからろくろを回していきます。水を付けた布を粘土に当て、表面を濡らします。そして、ろくろを回しながら両手を使って茶碗の壁を挟むようにして、下から上へ手をスライドさせ、茶碗の形を仕上げていきます。最後に頭部を少しだけ切り取って水平にし、濡れた布を当てて滑らかにします。ろくろから離して乾燥させるところで、体験は終了します。ここまでで約一時間を想定しています。整形後、高台を作る、焼く、釉薬を塗るといった行程に入ります。

失敗しても陶芸部部員がフォローしてくれるので大丈夫です。陶芸体験の様子は動画で見ることができます。



紹介動画へ(YouTube)

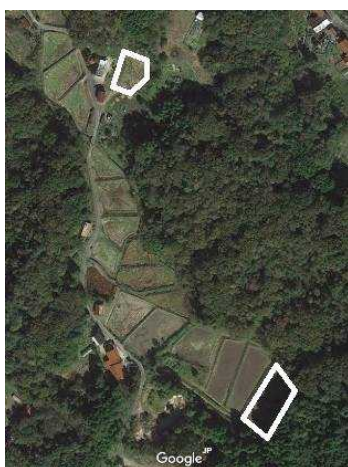
【お話】水田放牧プロジェクト by 深田耕太郎(生物資源科学部教員)

このプロジェクトは、使わなくなった水田で牧草を育て、出雲和牛を放牧しようというものです。現在、島根県農業技術センター、畜産技術センター、中山間地域研究センター、松江高専、ドコモCS中国、島根大学の人たちが協力して3年計画で研究を進めています。プロジェクトには主に4つのテーマがあります。牧草の選定と育て方、乾田化対策、電気牧柵の管理、GPSによる牛の追跡、です。

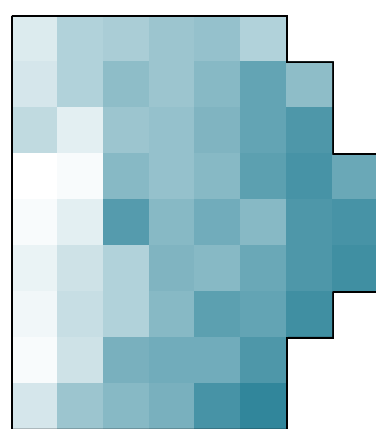
島根大学は乾田化対策を担当しています。普通の水田は水を貯めるように作られています。そのおかげで土壌は常に湿潤な状態に保たれます。しかし、過度な湿潤状態は逆に牧草には向いていません。そこで、田んぼが常に乾いているようにしたいという課題が出てきました。それも、できるだけお金をかけない方法が望まれています。

田んぼの乾田化を進めるには、まず田んぼに水が入らないようにすることが大事です。調査地区(邑南町須磨谷)の水田は周囲を山に囲まれています。降雨は、山側から地区内に流れ込んでいるようです。そこで、山と田んぼの境界に溝(明渠)を掘って水が溝に落ちるようにしました。

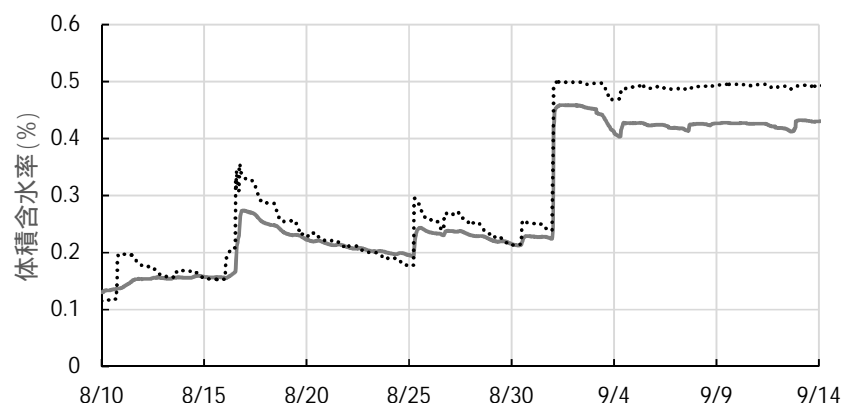
溝の効果は、すべての水田で同じではなく、効果が小さい場所もあるということが分かりました。地区内で一番高いところに位置する田んぼと下流側に位置する田んぼで土壌水分センサーを埋めて測定してみたところ、図のような結果が得られました。測定結果はまだ不十分ですが、下流側の水田では排水が上手くいかず、高い水分量が維持されています。このような場所に対して、排水性を上げられるような工夫ができないか、考えています。



ほ場(邑南町須磨谷)
図中の上ほど標高が低い



体積含水率の分布
(0.17白~0.46黒)
下のほ場(2019/2/27測定)



ほ場水分の経時変化(下のほ場2地点)